

あるべき税制委員会 58回 議事録 (2013年2月25日)

文責 森信茂樹

2月25日の「あるべき税制委員会」は、田近副委員長・一橋大学教授から、「わが国の公会計」について報告いただき、議論しました。

報告の概要は以下の通りです。

財務省は、平成25年1月29日、平成23年度「国の財務書類」を公表した。

[http://www.mof.go.jp/budget/report/public\\_finance\\_fact\\_sheet/fy2011/20130129.htm](http://www.mof.go.jp/budget/report/public_finance_fact_sheet/fy2011/20130129.htm)

これは、国全体の資産や負債などのストックの状況、費用や財源などのフローの財務状況をわかりやすく開示するという観点から、企業会計の考え方及び手法（発生主義、複式簿記）を参考としながら、平成15年度決算分より作成・公表しているものだ。平成23年度「国の財務書類」の貸借対照表における「資産合計」は、628.9兆円（対前年度比+3.8兆円）、「負債合計」は1,088.2兆円（対前年度比+45.3兆円）であり、「資産・負債差額」は459.3兆円と前年度417.8兆円より41.5兆円の悪化となっている。この他、「一般会計財務書類」も作成・公表している。

問題は、この財務書類から何をくみ取り、どういう政策に生かしていくのかということである。一つ問題は、いわゆる年金債務に関する情報が明確に出てきていないことである。これは、わが国財政の将来リスクについて触れられていないことは、今後改善の余地があろう。

以下の議事録本文は会員用メールマガジンで配信いたします。